

# 沙沙那美

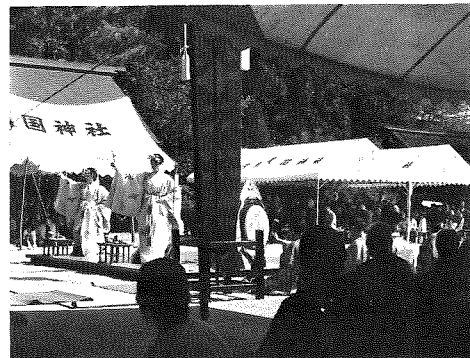


滋賀県護国神社  
社 報  
発 行 所

滋賀県護国神社社務所  
〒522 彦根市尾末町1番59号  
電 話 0749 22 0822  
印 刷 田中印刷所



みたま祭



例 大 祭

## 主 年 中 の 諸 行 事

- 四月 五日 春季例大祭
- 十月 五日 秋季例大祭
- 一月 一日 歳旦祭
- 二月 二日 御日供始並翁始
- 三月 三日 全国交通安全祈願祭
- 一日~五日 新年初詣特別参拝受付
- 二月 十一日 建国記念祭
- 十七日 祈年祭
- 四月 二十九日 天長節祭
- 五月 二十八日 天皇・皇后両陛下御親拝記念祭
- 六月 三十日 大祓式
- 八月 十三日~十五日 みたま祭
- 十五日 終戦記念日・戦没者追悼慰霊祭
- 十一月 三日 文化祭
- 十五日 七五三詣
- 二十三日 新嘗祭
- 十二月 三十一日 大祓式・除夜祭
- 毎月 一日・十五日 月次祭
- 毎日 御日供祭並命日祭





# 例大祭斎行

## 春季大祭

四月五日午前十時、県知事代理藤野利之助氏、諏訪三郎奉賛会長、小島幸雄県議会議長、小林隆崇敬者総代、守田厚子県遺族会長、各市町村長、各市遺族会長、多数のご来賓を迎え、春季大祭は祓所にの修祓の儀により開始され、諸祭儀滞り無く執り行なわれ、盛大裡に終了致しました。



お祓いをうける

崇敬者約一〇〇〇名の参列者の見守る中、修祓の儀海川山野の幸の献饌、山本宮司祝詞奏上、神社本庁献幣、守田遺族会長祭文等が執り行なわれ、今上陛下の御製「天地の神にぞ祈る朝なごの海のごとくに波たたぬ世を」をお唱り奉仕され、御神霊をお慰め申し上げました。引き続き各代表の玉串拝礼があり、宮司が最後に「ご挨拶申し上げて、諸祭儀終了致しました。」



お参りのご遺族

## 秋季大祭

十月五日午前十時、県知事代理中西三郎厚生部長、守田厚子県遺族会長を始め特別参列者多数を迎えて開始されました。

- 今大祭の合祀新祭神
- 中川 勇 之命(本籍 東浅井郡)
  - 飯田亀次郎之命( 滋賀郡)
  - 林 千賀三之命( 高島郡)
  - 島野 春三之命( 伊香郡)
- 今大祭の合祀新祭神
- 久保 秀雄之命(本籍 甲賀郡)
  - 山本 市次之命( 蒲生郡)
  - 松見 不成之命( 東浅井郡)
  - 杉橋弥太郎之命( 高島郡)
  - 浦谷 千代之命( 野洲郡)
  - 橋本 次郎之命( 〃 )
  - 蓮元 静子之命( 東浅井郡)
  - 奥村 昭吉之命( 蒲生郡)
  - 大谷 昭 之命( 高島郡)

英霊にこたえる会滋賀県本部(会長 河本嘉久蔵氏 会員数二万七千余名)では去る七月五日、草津市民会館にて昭和五十五年度通常総会を開催され、下記各項の実現のため政府に対し請願決議をされました。



ご参拝の河本会長始県本部役員

## 英霊にこたえる会滋賀県本部

沙那美第二号の上梓を見る事となり喜びに堪えません。本年は明治二十三年十月三十日に教育勅語を換発せられましてより満九十年に相当りますので、これを記念して神社本庁でも普く一般に徹底し実践すべき様の通達を出しました。ソ連・中国に於きましては早くより教育方針は我が国の教育勅語をいただいての教育と聞いております。祖国を愛せよ国旗を尊重せよと徹底した教育でありました。之に反し我が国は国旗は掲揚せず、

国歌は斎唱せぬ学校が未だ数多くあるやにきいておりますが、彼等は日本人ではないのでありませうか。誠に歎かたしい次第です。之を古今に通じて諺らず、之を中外に施して悖らぬこの教育の根本原典を弊履の如く捨て去って更に意に解せざるやからの多いのは何事でありませう。今日社会を明るくする問題、或いは青少年に関する問題等いろいろ取扱はれて居りますが、人倫の根本原理である国の教育勅語をなおざりにしては問題も片付かないのではなからせうか。我々は日本人である事を夢寐にだに忘る、事なくこの人倫の根本原理たる教育勅語を實踐し躬行して人格の向上を計りたいと念願して止みません。

# 御挨拶

## 宮司 山本浅次郎

国歌は斎唱せぬ学校が未だ数多くあるやにきいておりますが、彼等は日本人ではないのでありませうか。誠に歎かたしい次第です。之を古今に通じて諺らず、之を中外に施して悖らぬこの教育の根本原典を弊履の如く捨て去って更に意に解せざるやからの多いのは何事でありませう。今日社会を明るくする問題、或いは青少年に関する問題等いろいろ取扱はれて居りますが、人倫の根本原理である国の教育勅語をなおざりにしては問題も片付かないのではなからせうか。我々は日本人である事を夢寐にだに忘る、事なくこの人倫の根本原理たる教育勅語を實踐し躬行して人格の向上を計りたいと念願して止みません。

# 献燈みたま祭



楽しいあんどん作り

第四回みたま祭が八月十三日・十四日・十五日の三日間、多くの方々のご参拝を得て斎行されました。

期間中境内には靖国神社公式参拝実現の署名運動、御神楽舞奉納、遺骨収集記録映画会、子供あんどん作品展並表彰式、金魚すくい大会等様々な催しが開かれ、大いに賑わいました。また、本年は献燈数も増し、遺族会青年部の遺族献燈、神社の崇敬者特別献燈等二千五百余燈の「みあかし」が一斉に点燈された光景は、正に御祭神が我



慣れぬ手つきで売り子の青年部諸氏

後始末を終えた翌日あたりから天候がくずれていったことを考えると、実に御神霊の御加護、天佑とも申すべきことで、特筆すべきことでしょう。青年部の人たちの「やはりオヤジが見えてくれるんだなあ」の言葉が非常に印象的でした。



御祭神の子と孫一緒に署名運動受付



あんどん作品表彰式

我に語りかけてくるの感を覚え、胸に迫るものがありました。今夏は殊の外天候不順で、お天気が心配されましたが、幸い好天に恵まれ恙無く諸行事が執り行なわれました。それにつけても、期間中、鎮座地の彦根市周辺の地域に降雨があったにもかかわらず、当地がその影響を受けず、

# お便り

みたま祭も近づいた八月初め、遺族さんでしよう、坂田郡のある老婦人よ一通のお手紙を頂戴致しました。お孫さんより拝借されたのでしょうか、可愛らしい便箋でのお便りですが、その内容はご心溢れるものですのでご披露申し上げます。

夏中御見舞申志上げます。何時もみたまをお祭り戴きまして有難くお礼申志上げます。……中略……亡き夫のみたまに答えまして、八月十五日も目の前になりましたので、少し

# 献木

市内京町にて産婦人科病院の院長をなさっておられます辻村軍左右氏は、去る三月、彦根市に桜の苗木を多数ご寄附なさいましたが、その際当神社に



も三十本の献木をされました。同氏は、先の大戦には軍医として多くの戦傷兵を看られました。中には氏の腕の中で息を引きとつた兵隊さんもおられたとの由、それだけに英霊への鎮魂の思いはお強いのでしょう。毎日夕刻には当神社へお参りになります。

では御座居ますが、みたま祭にお役にお立て下さいませ。思ひ出すに亡き夫の影が今も尚、目の前に偲ばれます。お笑ひ下さいませ。戦の時と同じく、戦地に居なさいます思ひでと同じく影膳を供えさしてもらって居ります。一日と忘れた事はありません。でも思ひますに、神と敬まはれ、亡き夫も幸かと思つて居ます。先は乱筆で御座居ますがよろしくお願ひ申志上げます。かしこ 護国神社御中



# 境内清掃奉仕年間記録抄



社務所内も美しく

(昭和五十四年五月〜同五十五年六月)  
本年も多くの方々にご奉仕をいただきまし  
た。若い人からお年寄りまで、本当にご苦勞  
様でございました。ここに御名を記し、厚く  
御礼申し上げます。

- 五月 二十日 彦根市高宮学区婦人部 十三名
- 六月 十五日 犬上郡多賀町婦人部 二十名
- 七月 八日 彦根金亀レオクラブ 十五名
- 十五日 愛知郡秦荘町婦人部 二十三名
- 八月 五日 彦根市亀山学区婦人部 五名
- 十二日 県遺族会青年部 五十名
- 十六日 県遺族会青年部 七十名
- みたま祭後片付奉仕 八日 彦根市婦人部 十三名
- 彦根市遺族会 約五十名



お掃除前に記念撮影

- 十月 五日 彦根市遺族会 約五十名
- 二十日 愛知郡湖東町婦人部 十八名
- 二十七日 彦根市城南学区婦人部 十五名
- 二十九日 愛知郡愛東町婦人部 三十三名
- 十一月 十六日 愛知郡愛知川町婦人部 二十一名
- 五十五年
- 三月 二日 彦根市日夏学区婦人部 五名
- 三十日 彦根市銃剣道スポーツ少年団(指導者松居昇氏) 團長松林善紀君 始十九名



子供たちも清掃奉仕

- 四月 二日 八日 彦根市婦人部 十四名
- 三日 彦根市遺族会 約五十名
- 五日 彦根市遺族会 約五十名
- 五月 十八日 彦根市高宮学区婦人部 十二名
- 六月 二十日 彦根市尾末町老人会 約十五名
- 二十八日 犬上郡多賀町婦人部 三十一名
- 清掃用具として雑巾奉納 近江八幡市武佐学区婦人部

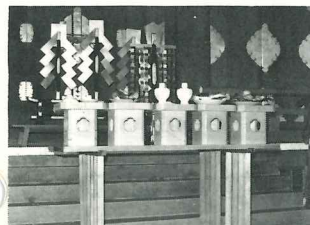
# 永代祭祀と慰霊について

過日、神社役員会の席上ある役員の方から永代祭祀について「神社に永代祭祀制度ができたようですが、これに入会しませんと一般遺族の英霊は「おまつり」がして貰えないのでは「ようか」とご質問を受けました。これは大変な誤解ですので訂正させていただきます。が、このようなお考えのご遺族が無ければなりませんので、ここに改めて永代祭祀とはどういふ祭祀で、その意図する処は何かというところを記してみたいと存じます。



月次祭ご奉仕の宮司以下職員

当護国神社ではご承知の通り、春秋の大祭月々の月次祭、そして夏のみたま祭等と、すべての御祭神の慰霊の祭典を厳肅に齎行してまいりまして、当神社の機能は年間を通じてほとんどこれらに費やされます。これだけをもつてしても、先の役員の方が思い違いなさっていることは明白です。さらにまたこれらの諸祭典以外にも、一年三百六十五日、毎朝、欠かすことなく御日供祭をご奉仕致しております。御祭神の神々様が生前好まれたであります。御祭神の神々様の幸を四季折々に応じて三方(神社の用具で一般ではお膳のようなもの)に盛り合わせ、そして御食(お米)御酒・塩・水と共に御神前にお供えし、日々の



月次祭(1日・15日)の御神饌

祝詞を奏上し、且つ慰霊の祝詞をも奏上致してあり、決して怠りのないよう謹んで祭典を執り行なっております。私共神職の日常の心構えの一つに、「当然の事とはいえ、「神様は居ますが如くお仕え申せ」ということがあります。これはどういふことかと申しますと、一例を示せば、我々は日々食事をするたびに、お膳を拭き、きれいに洗った箸、茶碗でもって食事を致します。しかるに神様にお出しす

# 散策(二)



碑の表側



碑の裏側

## 慰霊碑之由緒

彦根市 湯本信雄

此慰霊碑は昭和四十二年冬彦根市出身の湯本昌雄氏の献納されたもので、施工は駅前通りの石工伊藤半治郎氏の手に依って建立されたものです。昌雄氏は明治十二年旧葦屋町湯本源蔵の五男として生れ、元彦根中学卒業、同三十四年陸軍士官学校卒業、翌年少尉に任官、大津聯隊より台湾守備隊に派遣、同三十七年六月母隊に復帰直に日露戦役に出征中の歩兵第九聯隊の小隊長後、大隊副官として三十八年十二月凱旋帰還迄一年有半、満州の野に幾百千の戦友と共に櫛風沐雨弾丸雨飛の中、死は鴻毛よりも軽しと唯々君国の為め、力戦奮闘言語に絶する苦闘を続け未曾有の勲績を挙げたのであるが、今は靖国の御社に、将又当護国神社に神鎮まらざる幾百千の戦友と永遠の別れをせなければならなかつた。

昌雄氏は凱旋後引き続き大津聯隊中隊長として奉職して居られたが、大正二年都合に依り退職、生れ故郷彦根に帰郷、自作の句に「浮世捨て浮木を見つめて五十年」文字通り脱俗の余生を送つて居られたが、夫れで居て満州の野に生死を共に御国の為め戦つて終に不帰の客となり殉国の英霊となられた戦友の事は、一日片時も忘れる事なく、常に御遺族の御多幸を祈り続けて居られた由。而して折りあらば何んとか慰霊の微意を表現したきものと念願して居られた様です。時移り世は変り、敗戦の憂き目を見た祖国は遺憾乍米軍の進駐する処となり、政治に迄容喙し、日露戦役で武功抜群で表彰された金鶏勲章の恩典迄剝奪した。昭和二十五年平和条約成立、進駐軍撤退、我国も独立国家として立ち挙げられた。此時金鶏勲章受賞の各員は恩典剝奪の暴挙をなじり其復旧を迫った。政府も其意を諒し、昭和四十年上下の差別を不問、一率に金十万円を下賜される事となった。此時受賞者であった昌雄氏も戴ける事になったが、世捨て人には御金は不要、これこそ常平素念願して居た亡き戦友の慰霊に使用と、賜金其俦で伊藤氏に依頼されて建立されたのが此慰霊碑であります。昌雄氏は此機会に当時一家四人兄弟が揃つて日露の役に従軍、神の御加護に依り何れも無事凱旋し得た御礼を兼ねて一面四人共々に英霊を御慰め申して居る気持を含めて、裏面に兄弟四人

次頁へ続く



ある日の御日供祭の御神饌

本年は余り暑さも感じませぬ内に秋らしいなりました。御貴家皆々様御変わりも無く御暮り下さいます御様子何よりとお喜び申し上げます。私は八十六才になりましたが、おかげ様で何事も無く一日喜びに過ぎさせていたで居ります。外出は余り致しませんので御礼状がおそくなりまして御わび申し上げます。此度は永代祭祀の証お送り下さいましたありがとうございます。たしかにいたたきました。之で私も安心で御座います。厚く御礼申し上げます。時節柄皆々様御自愛下さいまして御達者で御暮り下さいますやう御祈り申し上げます。八月二十二日 大久保 勝



永代祭祀の御神饌

- 永代日祭申込み者芳名(お申込み順)
- 八日市市 村上 いく様
  - 神崎郡 大久保 勝様
  - 守山市 今井 潔様
  - 坂田郡 榎村 婦く様
  - 坂田郡 大平 静枝様
  - 八日市市 中江 佐予様
  - 近江八幡市 田中久次郎様
  - 守山市 新道藤治郎様
  - 彦根市 寺村 婦亭様
- 永代祭について詳細は社務所までおたずね下さい。



の名と戦地で自作の句を刻し従軍記念とされたのが此碑で御座います。

前回に引き続き境内に建立されている碑のご紹介を致します。今回ご紹介の碑は、手水舎の奥に並ぶ三基の内、まん中に建てられてある慰霊碑です。表の碑文の句は「散りてこそ 誉れあるなり やま桜 まさ雄」。裏面の句は「戦場の四季」と題され「奉天の東陵南陵揚げ雲雀」「駒つなぎ渾河に垢を流しけり」「秋雨霏々遼陽高塔晚鴉鳴く」「萬世晴れて沙河の敵も雪を

### 新春初詣のご案内

年末年始には各地の神社、仏閣に於て種々の行事を執り行ないますが、当護国神社にても左記の通りの諸祭典、諸行事を執り行ない厳肅なるうちに清々しい新年をお迎へ申します。皆様方には是非共御参拝下さいますよう御案内申し上げます。

- 十二月三十一日 午後三時 大祓式  
今年一年中の罪穢をお祓いします。  
夜十一時三十分 かがり火に点火すると同時に除夜祭を斎行致します。
- 除夜祭に引き続き県遺族会青年部新年祈願祭が執り行なわれます。
- 一月一日 午前 九時 歳旦祭
- 二日 午前十一時 御日供始祭 並誦曲始祭

捨つ」の四句、そしてその下に日露戦争従軍記念。湯本英雄、義雄、昌雄、信雄、の四氏の名が刻されています。

今回のご紹介の文は、彦根市栄町にお住まいの湯本信雄氏にお願い致しました。同氏は文中に出ている昌雄氏の弟君にあたられ、現在九十九才のご高齢で市内最長老です。白寿を迎えられてもなおカクシヤクとしておられ、今回の原稿依頼にも喜んでお引き受け下さいました。日露戦争の勇士でもあられた同氏、いつまでもお達者でお暮らしいただきたいと存じます。

○一月三日 午前 十時 全国交通安全全祈願祭

※それぞれの祭典は自由に参列出来ますので、当日社務所までお申し出下さい。  
※御参拝の方々は元旦より五日まで御神前にて御神酒をおあげしています。  
※御希望の方には新年祈願祭、家内安全等の御祈禱を執り行ない、無病息災の「力餅」をおあげします。

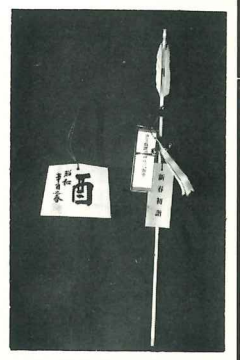
また、開運厄除の御神矢、宮司揮毫の十二支絵馬等の授与も致して居ります。



翁始の奉仕者



神人初樂



宮司揮毫えと絵馬御神矢

### お心掛け下さい

この夏も終りに近い頃、市内高宮神社の宮司大菅正次氏と用談中、遺族でもある同氏の手元に当護国神社の昭和十七年の御造営工事の模様を伝える新聞記事の切り抜きがあるのを知り、見せていただきますと、五月二十四日付の記事には、前日に執り行なわれた上棟祭の様子が載せられており、また十月二十五日付の記事には「湖国の英霊を久遠に護国の神として祭祀する県護国神社は脇鳥居と附属建物の休憩所を残しあすの遷座祭を前にして事実上竣工した。竣工式は明春盛大に挙行される……云々」とあり、「莊嚴の気漲る神域」の紹介を詳しく報じていて、当時の諸祭典がなかなかの盛儀であったことが推察できます。こういったものは今まで神社に記録としてなく、貴重な資料ですので、お借りして複写させていただきます。

当神社も御創立以来百有余年を数えますが、その間の歴史の変遷、時代の流れの中での神社の姿を伝える資料がそれほど多く残っていません。それ故将来のために、昭和四十九年、五十年の皇太子・同妃両殿下御参拝、天皇・

### 編集後記

○沙沙那美第二号をお届け致します。  
○掲載記事の選定をするのは簡単なよう得意外とむつかしいものだ。アレもコレも欲張った考えを抱いてしまい、結局の処このような内容に落ち着いてしまった。また、できるだけ平易な文章を心掛けていたのだが、何せが堅物で編集は不慣れな上に浅学非才ときている。大方のご叱責を乞う。  
○社報の発行により十月が一年中で一番多忙な月になってしまった。秋季大祭に引き続きの社報の編集、それを終えたと御神符の発送準備、封筒の宛名書き等……ついっいたバコを喫い過ぎてしまう。

○元高島郡連合会長で現在兵庫県にお住まいの饗庭孝一氏より、社報を受け取り「懐しい」とのお便りを頂戴した。神社の方もご返事をいたたくと嬉しい。  
神社当局と遺族崇敬者の皆様と相協力して護国神社を護持奉斎していかなければならない。この社報がその一助にでもなれば幸甚である。